

Rudolf Steiner:

“Esoterische Betrachtungen  
karmischer Zusammenhänge”, Band IV, GA 238

Das geistige Leben der Gegenwart im Zusammenhang  
mit der anthroposophischen Bewegung

シュタイナー最晩年のカルマ論講演

最も重要な「カルマ論全集」

(日本では未訳の3巻～6巻)の邦訳

本当のカルマを生き尽くすための

…カルマ認識の書

新刊書 2022年8月20日発行  
A5版フランス装 本文224頁  
ISBN978-4-903865-52-2  
定価3300円 (本体価格3000円+税)



廃墟のゲーテアナム

ルドルフ・シュタイナー(1861.2.27~1925.3.30)の最晩年  
1924年は、バイオダイナミック農法の農業講座をはじめと  
して、音楽オイリュトミー講座、言語オイリュトミー講座、  
治療教育講座などを行い、同時に、1922年12月31日に  
消失したゲーテアナム再建のための立体粘土モデルを制作  
している。

本書は、81回にも及ぶカルマ論講演「カルマ的関連の秘教的  
考察」(ドイツ語版原書・全6巻)の第4巻『アントロポゾフ  
ィー運動と現代の霊的生活』(1924年9月5日~28日、ドル  
ナッハ)の初訳であり、「最後の講話」が収録されている。

訳者の浅田豊氏は、解説で「カルマの関連を知ることにより  
初めて、世界の出来事は透明になり、理解することができ  
るようになる」というシュタイナーの言葉を引いているが、  
ほぼ1世紀を経て、本講演は現代を生きる私たちに大きな  
力を与える。

訳者 浅田 豊 Yutaka Asada

オイリュトミスト、人智学研究者。スイス在住、ゲーテアナム書店  
に勤務。シュタイナーの思想、社会論を研究。

訳書にシュタイナー著『二つのメモランダム(覚書き)』、『個人と  
人類を導く霊のはたらき』、『ゲーテの世界観の認識論要綱』、共訳  
『アントロポゾフィー医学の本質』などがある。

学芸研究室の広報誌「Stella」に、「ルドルフ・シュタイナーとその  
時代」を連載。年に2度ほど来日、各地で講座を行っている。

ルドルフ・シュタイナー講演集

[カルマ的関連の秘教的考察]



ルドルフ・シュタイナー

# アントロポゾフィー運動と 現代の霊的生活

ドルナッハにおける10回の講演と1回の講話 (1924.9.5-28)

浅田 豊 訳・解説

超感覚的なものは、…感覚的なものの中に現われるのです。

とらわれのない仕方で、全き認識の信念をもって、  
超感覚的な事実を取り扱うことです。

…それによって初めてアントロポゾフィー運動に、  
本当の精神的内容を与えることが可能になるのです。

\*

私たちが1年を巡る他の祝祭に加えて、  
それに正しく呼応するような「ミカエル祝祭」を  
将来的に付け加えることができるとしたら、  
それはアントロポゾフィーによる時代の徴の解釈というべきものの  
最も美しい成果の一つになるでしょう。

\*

人間の心情のすべてで受け取られた時にだけ、  
人類にとってアントロポゾフィーは意味を持つのです。

(本文より)

## ●目次より

### 訳者による序文

#### ドルナッハにおける10回の講演と1回の講話

- 講演1 クリスマス会議の意義/今日の人間の意識/太古の人間の三つの意識状態/他  
講演2 アントロポゾフィーの育成とカルマ研究/古代エジプト中世/現代における受肉/他  
講演3 アリストテレスとアレクサンダー大王/アーサー王の騎士たちの自然体験/他  
講演4 シャルトル学派の流れ/プラトン主義者とアリストテレス主義者の協働作業/他  
講演5 1人の修道士の現代における受肉/健康な人間と病気の人間の霊的観察/他  
講演6 ミカエルの履修学校と超感覚的祭礼/アントロポゾフィーの準備/他  
講演7 星は霊的存在の居住地/死後の最初の滞在地一月の領域/他  
講演8 アグリッパと枢機卿マザラン/ウラディミール・ソロヴィヨフ/他  
講演9 バビロン捕囚期のある女性とその友人/トマス・カンパネラの受肉/他  
講演10 19世紀の知性主義/プラトン/修道女ロスヴィータ/カール・ユリウス・シュレーアー/他  
最後の講話 9月28日(日)

### 訳者による解説

ストリンドベリとシュライヒの時空を超えた友情/背教者ユリアヌスと太陽的キリスト教/おわりに